

平成 27 年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者後期入試 試験問題

刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 50 点、問題 2 が 50 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】 以下の事例を読んで、Xの罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く）。
（解答の冒頭に「問題 1」と記入すること。）

甲暴力団の組長であるXは、勢力争いから乙暴力団の組長Aを殺害することを企て、某日の早朝、公園を散歩中のAに向けて拳銃一発を発射したところ、銃弾はAの左肩に命中しAに傷害を負わせるとともに、偶然背後にいたBにも命中し、Bを死亡させた。Aの殺害に失敗したと思ったXは、再度Aをめがけて拳銃の引き金を引いたところ、銃弾はAの至近距離を通過したものの、Aには命中せず、Aの飼い犬に命中し、これを死亡させた。なお、それぞれの銃撃に際し、Xは、Bの存在およびAの飼い犬の存在を認識していなかった。

《問題 1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】次の〔問1〕および〔問2〕に解答しなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

〔問1〕

警察官甲らは、飲酒運転の疑いのある被疑者Xの血中アルコール度を調べるため、Xから強制的に血液を採取しようと考えている。この場合、どのような令状が必要か論じよ。なお、強制採血の是非は問わない。

〔問2〕

警察官乙らは、被疑者Yがラップに包んだ覚せい剤を飲み込んだ疑いを強めた。そこで、乙らは、Yの腹部にレントゲンを照射して腹部の撮影をした上、体内にラップ様のものがあることを確認できた場合には、下剤を飲ませて体外に排出させてこれを押収しようと考えている。この場合、令状は必要か。必要だとすれば、どのような令状が必要か論じよ。なお、レントゲン照射および下剤を飲ませることの是非は問わない。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

具体的事実の錯誤及び抽象的事実の錯誤といった、法学部の刑法において学修する基本的な事項を問うことにより、刑法理論に関する正確な理解をみるとともに、事例処理能力を試すものである。

問題 2

問 1 は、強制処分である強制採血に必要な令状の種類を問うものである。

問 2 は、本件レントゲン照射ないし下剤を飲ませて対外に排出させた物の押収が強制処分に該当するか、該当するとした場合いかなる種類の令状が必要かを問うものである。